

トピックス

「重症急性呼吸器症候群(SARS)」関連情報(第 13 報)

【平成 15 年 6 月 11 日現在】

現在の状況

WHO は 6 月 11 日現在、SARS の地域内伝播が最近発生している地域として、香港、中国（北京、広東省、河北省、湖北省、内蒙古自治区、吉林省、江蘇省、山西省、陝西省、天津）、台湾（全域）、カナダ（トロント）を報告しています。

また、WHO は中国（北京、河北省、天津、山西省、内蒙古自治区）、台湾（全域）への、CDC（米国疾病対策センター）は中国全土、台湾（全域）への不要不急な旅行の延期を勧告しており、我が国の外務省も WHO と同じ地域への不要不急な旅行の再考勧告を含む海外渡航危険情報を出し、注意をうながしています。

表に示しますように、WHO によると、これまでに 8,435 名（先週 8,402 名）の SARS 「可能性例」の累積報告数と 789 名（先週 772 名）の死亡者が報告されています。一方、回復例も 6,581 名（先週 5,746 名）と増加しており、6 月 11 日の時点で、これまでに発症した患者のうち約 80% の人がすでに退院や回復したと報告されています。我が国では 6 月 11 日現在 68 例（「疑い例」（52 例）、「可能性例」（16 例））が厚生労働省より報告されていますが、SARS と確認された症例はありません。

主要各国における SARS 「可能性例」の累積報告数(6 月 11 日 WHO 公表)

国名	累積報告数(名) (先週分)	回復例(名) (先週分)	死亡例(名) (先週分)
中国本土	5,329 (5,329)	4,390 (3,674)	343 (334)
香港	1,754 (1,748)	1,368 (1,339)	290 (283)
台湾	687 (678)	344 (272)	81 (81)
カナダ	230 (216)	134 (121)	32 (31)
シンガポール	206 (206)	168 (165)	31 (31)
報告のあった 国の全合計	8,435 (8,402)	6,581 (5,746)	789 (772)

臨床経過・予防方法等について

1 臨床経過等について

- 1) 最長の潜伏期間：10 日間
- 2) 主な症状（香港・健康福祉食品局 5 月 22 日現在）

症状	全身症状					呼吸器症状			消化器症状
	発熱	悪寒	倦怠感	頭痛	筋肉痛	咳	咽頭痛	鼻水	下痢
割合(%)	93.3	58	55.9	42.6	42.8	45.8	18.3	12.4	17.5

* 香港における「可能性例」患者の 97.2%（1672/1719 名）の解析

3) 年齢階層別の致死率（香港・健康福祉食品局のデータから作成）

表に示すように、致死率の高い 65 才以上の患者が 18%と大きな割合を占めていることが、全体の致死率の平均（13.8%）を押し上げているものと思われる。

SARS年齢階層別致死率(香港・健康福祉食品局)

年齢階層	患者数（割合%）	死亡者数	致死率（%）
0～24歳	254（15）	0	0
25～34歳	406（24）	7	1.7
35～44歳	355（21）	32	9.0
45～54歳	254（15）	27	10.6
55～64歳	118（7）	23	19.5
65歳以上	304（18）	145	47.7
合計	1,691（100）	234	13.8

また、年齢以外の影響では、基礎疾患や合併症（免疫不全症、糖尿病、心疾患、呼吸器疾患等）の有無、喫煙、治療法によって致死率は大きく異なるとの報告もありますが、現時点では未だ確定的なものは発表されていません。

2 予防方法等について

1) 感染経路：症例のほとんどが医師や看護師、それに患者と同居する家族など患者との濃厚接触者から多くの患者が発生していることから、現時点では、2m以内での咳やくしゃみ等の飛沫による直接感染（空気感染とは異なる）及び、飛沫、喀痰、糞便、尿等の体液が付着した物を介したり、直接それらに接触することによる接触感染と考えられている。そのため、特に手洗いの励行を主体としたうがいなども含めた一般的な衛生状態の保持は有効と考えられる。

2) 消毒方法等

- ・消毒用エタノールなどの一般に用いられている消毒剤によって5分程度で感染力がなくなることが報告されている。
- ・手などは、石鹼での感染性の不活化は困難なため、機械的にこすり落とすことが効果的。また、消毒用エタノールを頻回に使用すると、その脱脂効果のため皮膚が荒れることがあるので、皮膚に使用する場合はふき取る程度にとどめるなどの注意が必要とされている。
- ・家庭・職場におけるドアノブ等の手に触れる場所やトイレ等の消毒には、家庭用漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム5%濃度で含有）を50～100倍程度に希釈してふき取りや洗浄等を行うことが勧められている。

愛知県は4月16日、「愛知県SARS対応行動計画（暫定版）」を発表しましたが、6月2日、最新の情報を盛り込んだ2訂版を新たに発表しました。

この「愛知県SARS対応行動計画」は、

[健康対策課のホームページ](http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/sars/index.html)

（<http://www.pref.aichi.jp/kenkotaisaku/sars/index.html>）

からダウンロードできます。この行動計画の中で、SARS「疑い例」と「可能性例」のすべてを衛生研究所と国立感染症研究所において検査を実施することになりました。ただし、SARSの重症度は多種多様であり、現時点では信頼性の高い検査法が無いため、従来の症例

定義に基づいて診断すること。したがって、検査結果を待って報告を遅らせてはならないこと、感度が低いために感染初期等において感染例を見逃す可能性があることから、検査結果が陰性の場合でも報告を取り下げてはいけないこととし、PCR 法では偽陽性(10~20%)も否定できないことから、現時点ではあくまで検査は補助的なものであることが強調されています。台湾と米国における実際の検査結果報告(米国CDCの週報MMWR; Vol.52; No.20, 461-466; No.21, 500-501; 2003)においても、SARS「可能性例」(483例と66例)においてさえ陽性率が10~30%程度と低く、陰性率も50%近くあることから、検査法のさらなる改良が必要とされています(報告された感度の低さは米国CDCが使用しているPCR用プライマーによるとの指摘もなされています)。また、検査手技に関しても、精度管理の徹底(陽性・陰性コントロールを用いた検査の実施など)と2重のチェック(異なる病日または咽頭ぬぐい液と糞便等の異なる種類の検体を複数回または2ヶ所の施設で検査を実施)を必要としています。

* **重症急性呼吸器症候群の検査法については衛生研究所のホームページ**
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/sars.html>および
http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/sars_kensa.pdf)をご覧ください。

なお、厚生労働省通知「SARSコロナウイルスの行政検査要領(SARS対策第13報関係)」の一部改正(6月6日付け)によりますと、患者からのウイルスの排出量は発症10日頃をピークとしているため、発症10日後の便、気道からの検体(鼻咽頭ぬぐい液、喀痰等)は必ず採取することが診断上望ましい。また、抗体測定のための血清は発症10日以内と20日以降(陽性率約65%)のペア(ただし、発症20-29日の検体で抗体陰性であった場合は、発症30日以降の検体を必ず採取すること;陽性率約95%)が診断上望ましいとされています。

SARSは現在、感染症法上の「新感染症」として取り扱うとされ、エボラ出血熱など**1類の疾患**と同様な対処が求められています(厚生労働省、3月14日付の通知)。これにより、以下の条件(症例定義)を満たす疾患はその全てを報告する必要があります。

< SARS 疑い例及び可能性例の届出のための症例定義 >

【平成15年5月9日から適用】

疑い例

- 平成14年11月1日以降に、38度以上の急な発熱及び咳、呼吸困難等の呼吸器症状を示して受診した者のうち、次のいずれか1つ以上の条件を満たす者
 - 発症前10日以内にSARSの「疑い例」・「可能性例」を看護若しくは介護していた者、同居していた者、又は気道分泌物若しくは体液に直接接触した者
 - 発症前10日以内に、SARSの発生が報告されている地域*(WHOが公表したSARSの伝播確認地域)へ旅行した者
 - 発症前10日以内に、SARSの発生が報告されている地域*(WHOが公表したSARSの伝播確認地域)に居住していた者
- 平成14年11月1日以降に死亡し、病理解剖が行われていない者のうち、上記1の(1)~(3)のいずれか1つ以上の条件を満たす者

可能性例

疑い例のうち、次のいずれかの条件を満たす者

- 胸部レントゲン写真で肺炎、または呼吸窮迫症候群の所見を示す者
- 病理解剖所見が呼吸窮迫症候群の病理所見として矛盾せず、はっきりとした原因がないもの
- SARSコロナウイルス検査の1つ又はそれ以上で陽性となった者

除外基準

他の診断によって症状が説明できる場合は除外する。

この症候群の「最近の地域内伝播」が発生している地域

(6月11日 WHO公表)

国名	地域	地域内感染伝播のパターン
カナダ	トロント	B
中国	北京 [!]	C
	広東	C
	河北省 [!]	B
	香港中国特別行政区	B
	湖北省	A
	内蒙古自治区 [!]	C
	吉林省	B
	江蘇省	A
	山西 [!]	C
	陝西省	A
	天津 [!]	C
	台湾 [!]	C

! WHO から不要不急な旅行の再考勧告が出されている地域 (6月11日現在)

その地域内での感染が最も強く疑われる複数の SARS 可能性例が報告された地域 (最後に報告された可能性例が死亡したり、または隔離されてから20日間、新しい症例が確認されなかった場合にはその地域はリストから除外される。)

【パターン A】

輸入された SARS の「可能性症例」患者と直接個人的な接触があった人達の間だけに二次感染による「可能性症例」患者が発生しているパターン

【パターン B】

パターン A による二次感染「可能性症例」患者から、これらの患者との接触が前もって確認されていた人達の間、さらに「可能性症例」患者が発生しているパターン

【パターン C】

「可能性症例」患者との接触が前もって確認されていない人達の間にも「可能性症例」患者が発生しているパターン

【不確定】

地域での感染伝播の明確な場所や程度を特定する情報が不足している場合

参考

WHO (<http://www.who.int/en/>)

Severe Acute Respiratory Syndrome (SARS) を参照してください。

厚生労働省 (<http://www.mhlw.go.jp/index.html>)

東南アジア等で流行している「重症急性呼吸器症候群」関連情報

(<http://www.mhlw.go.jp/topics/2003/03/tp0318-1.html>) および

伝播確認地域 (<http://www.mhlw.go.jp/topics/2003/03/tp0318-1e.html>) を参照してください。

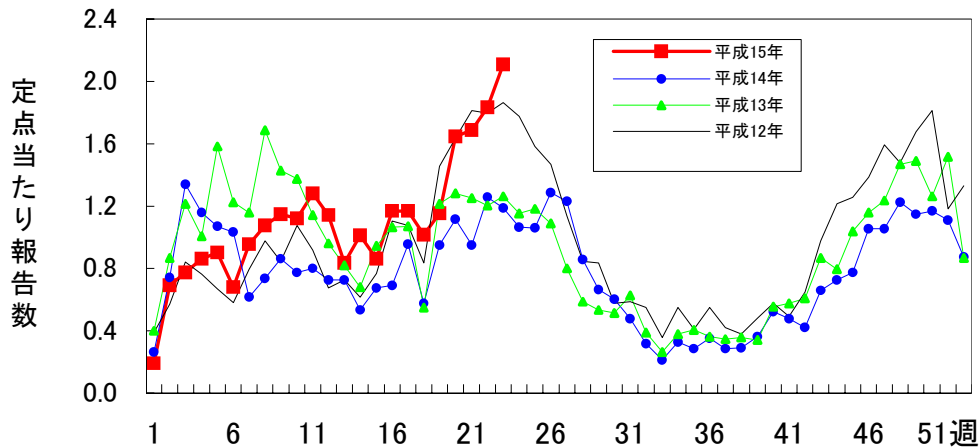
感染症情報センター (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)

緊急情報 重症急性呼吸器症候群 (<http://idsc.nih.go.jp/others/urgent/update.html>) および

伝播確認地域 (<http://idsc.nih.go.jp/others/urgent/area-66.html>) を参照してください。

流行状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



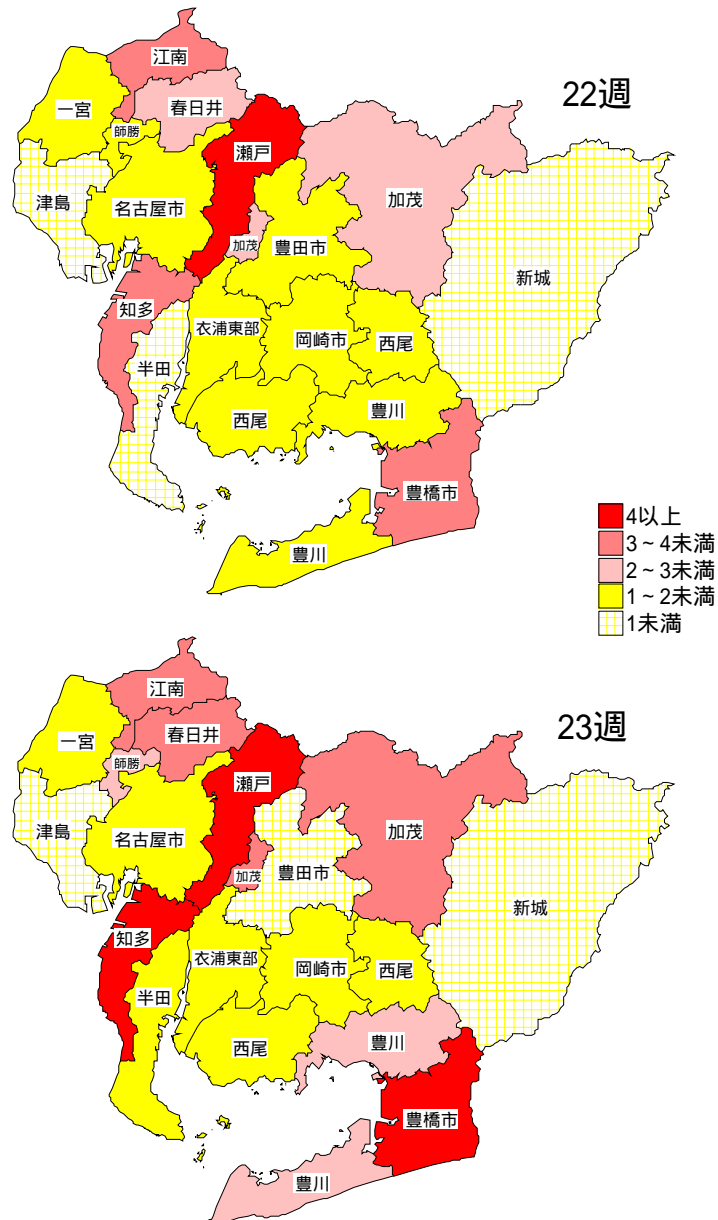
疾患名	前週	今週	備考
<u>A群溶血性レンサ球菌咽頭炎</u>	1.8 ↑	2.1 ↑	レンサ球菌のうち血清型分類のA群に分類されるものによる上気道感染症 外から帰った時には、必ず手洗いとうがいをしてください。
<u>手足口病</u> <u>夏のウイルス感染症</u>	1.6 ↑	1.6 →	夏かぜウイルスの飛沫、経口、水疱からの感染。口の中、手や足の先の水疱性発疹
<u>ヘルパンギーナ</u> <u>夏のウイルス感染症</u>	1.01 ↑	1.28 ↑	夏かぜの一つ。咽頭に赤いリングの小水疱と浅い潰瘍
<u>咽頭結膜熱</u>	0.18 ↓	0.20 ↑	発熱・咽頭炎・結膜炎を主症状とする急性のアデノウイルス感染症
<u>麻疹（はしか）</u>	0.08 ↑	0.07 ↓	予防には ワクチンが有効
<u>マイコプラズマ肺炎</u>	0.54 ↑	0.23 ↓	マイコプラズマとよばれる病原体による空咳と胸痛が特徴的な肺炎 3 定点 から コメント での患者発生報告あり
<u>無菌性髄膜炎</u>	0.08 ↑	— ↓	細菌以外のウイルス等による髄膜炎のこと 2 定点 から コメント での患者発生報告あり

定点当たり報告数	定点当たり報告数	定点当たり報告数
→ 横ばい	↑ 増加	↓ 減少

感染症についての説明及びグラフ総覧については、愛知県衛生研究所のホームページをご覧ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/>)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の保健所別報告数の推移(名古屋市含む)



	22週	定点 当たり	23週	定点 当たり		22週	定点 当たり	23週	定点 当たり
名古屋市	107	1.53	108	1.54	岡崎市	13	1.86	13	1.86
瀬戸	48	5.33	39	4.33	衣浦東部	12	1.09	12	1.09
津島	3	0.43	3	0.43	西尾	9	1.80	9	1.80
師勝	4	1.00	10	2.50	豊田市	10	1.25	7	0.88
一宮	13	1.08	17	1.42	加茂	7	2.33	11	3.67
春日井	22	2.44	32	3.56	豊橋市	29	3.63	44	5.50
江南	18	3.00	20	3.33	豊川	11	1.38	19	2.38
半田	3	0.50	10	1.67	新城	0	0.00	1	0.50
知多	25	3.57	29	4.14					

■ は今週警報が発生している保健所です。

厚生労働省感染症発生動向調査警報発生システムによるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行発生警報定点当たり4.0人を越えた場合に発生し、2.0人を下回るまで継続します。警報の意味は大きな流行が発生または継続しつつあることが疑われるということです。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

病原性大腸菌O1 4歳男、5歳男、7歳男、24歳女
病原性大腸菌O6 6歳女
病原性大腸菌O18 1歳男
病原性大腸菌O25 3歳女
病原性大腸菌O166 2歳男
エンテロウイルス流行中です。

【尾西市 城後小児科】

川崎病 3歳男
ウイルス性と思われる発疹を伴う発熱が多い。

【一宮市 平谷小児科】

手足口病、溶連菌感染症が流行中です。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

水痘が目立っています。
溶連菌も多いようです。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

30歳女 マイコプラズマ感染症

【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

マイコプラズマ肺炎が多くみられます。
アデノウイルス感染症も増えはじめました。
カンピロバクター腸炎 10歳女

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

今週も溶連菌流行続いています。（学童、生徒にも流行広がっているようです。）

流行性耳下腺炎も多くみられます。
その他、水痘、ヘルパンギーナ、手足口病等みられております。

【尾張旭市 医療法人誠和会 佐伯小児科医院】

10歳男 カンピロバクター腸炎

【豊明市 豊明団地診療所】

手足口病と溶連菌感染症が多発しています。
ヘルパンギーナ少々

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

溶連菌感染症、水痘がみられました。

【春日井市 かちがわ北病院】

ヘルパンギーナ急増しています。

【春日井市 竹内医院】

無菌性髄膜炎やや流行
感冒性胃腸炎少数
マイコプラズマ肺炎多い。

【小牧市 小牧市民病院】

夏風邪および無菌性髄膜炎が増加しています。

【小牧市 志水こどもクリニック】

感染性胃腸炎がすこしずつ増加しました。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

感染性腸炎（嘔吐が主）がみられます。

【東海市 小児科ハヤカワ医院】

帯状疱疹 2歳女

【東海市 東海市民病院】

西三河地区

11ヵ月男 病原大腸菌O25、カンピロバクター

3歳男 病原大腸菌O6、O1

1歳男 アデノウイルス チェック Ad(+)

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

8歳男 サルモネラO9

7ヵ月男 カンピロバクター、病原性大腸菌O1 VT(-)

1歳男 カンピロバクター、病原性大腸菌O1 VT(-)

12歳男 サルモネラO9

【岡崎市 にいのみ小児科】

1歳女 病原性大腸菌O125

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

2歳男2名 感染性下痢症（白色便）

11歳女 カンピロバクター

【西尾市 やすい小児科】

1歳男 病原性大腸菌O55 VT(-)

1歳男 病原性大腸菌O111 VT(-)

2歳女 病原性大腸菌O1 VT(-)

5歳男 病原性大腸菌O44 VT(-)

【幸田町 とみた小児科】

マイコプラズマ肺炎 4歳女2人、2歳女

感染性胃腸炎がまだ多いです。

【三好町 三好町民病院】

東三河地区

麻疹2人共予防接種しています。

【豊橋市 キンバラ小児科】

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が流行しています。

【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】

ヘルパンギーナなど夏かぜによる熱発児が多い。

【田原町 かわせ小児科】

1～3類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

腸管出血性大腸菌感染症

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
*	知多	2	男	6 / 3	6 / 3	6 / 9	O 26 VT1(+) VT2(-)	24週報告分

全数把握の4類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

急性ウイルス性肝炎 1例 B型 (22週分追加報告)

第21週(15年5月19日~5月25日)の4類感染症 (全国)

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多く、過去10年間と比較して本年16週以降最高の値で推移している。都道府県別では大分県(3.1)、福岡県(0.9)、岐阜県(0.7)、滋賀県(0.7)が多い。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多く、都道府県別では富山県(4.8)、山形県(3.4)、宮崎県(3.1)が多い。マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は微増し0.24で、依然として過去4年間の同時期の平均と比較して約2倍となっている。都道府県別では宮城県(1.5)、青森県(1.2)、高知県(0.9)が多い。手足口病の定点当たり報告数は増加し、都道府県別では山口県(5.8)、宮崎県(4.2)、佐賀県(2.6)が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加し、都道府県別では北海道(1.2)、群馬県(1.1)、静岡県(1.0)が多い。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は増加し、都道府県別では鳥取県(3.0)、福井県(2.3)、山口県(2.2)が多い。風疹の定点当たり報告数は微減し、都道府県別では減少傾向は見られるものの、依然として岡山県(0.8)が多い。麻疹(成人麻疹を除く)の定点当たり報告数は微減し、都道府県別では福島県(0.7)、宮城県(0.6)、栃木県(0.6)が多い。流行性角結膜炎の定点当たり報告数は増加し、都道府県別では東京都(4.1)、香川県(3.0)、愛媛県(2.9)、茨城県(2.8)が多い。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター - 感染症情報室提供)

詳細は感染症情報センター - のホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/kanja/index-j.html>) の感染症発生動向調査週報をご覧ください。

愛知県感染症情報

2003年第1週～第23週(平成14年12月30日～平成15年6月8日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	風疹	ヘルパンギーナ	麻疹	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	急性脳炎 (日本脳炎を除く)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	成人麻疹
計	38,579	286	3,379	15,122	6,924	1,227	576	2,156	22	18	460	73	1,870	20	367	1	3	7	64	0	1
～6ヶ月	518	1	5	166	173	11	4	171	3		8		2		1	/	/	/	/	/	/
～12ヶ月	1,096	10	19	1,013	402	51	25	1,326	6	1	36	10	13		9	/	/	/	/	/	/
0歳	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1歳	3,227	56	86	2,428	1,229	259	34	611	4	2	133	16	88		8				8		
2歳	3,245	59	203	1,748	1,206	245	54	40	2	1	84	6	136	1	9				6		
3歳	3,321	41	402	1,681	1,248	220	61	3			80	6	274		10				4		
4歳	3,516	39	655	1,500	1,229	190	84		3	1	57	4	386		7				6		
5歳	2,262	30	637	1,141	747	97	75		1	2	33	3	363	1	8		/	/	/	/	/
6歳	1,825	15	523	833	322	53	81	2			9	7	218		1		/	/	/	/	/
7歳	1,466	14	268	667	133	26	46		1	3	5	2	121		3		/	/	/	/	/
8歳	1,304	5	181	532	86	16	47	2		2	3	2	97		3		/	/	/	/	/
9歳	1,336	3	108	417	43	4	20			1	2	2	47		1		/	/	/	/	/
5歳～9歳	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2	12	/	/
10歳～14歳	4,859	1	151	940	70	19	37	1	2	1	3	11	74	1	18				12		
15歳～19歳	1,573		10	252	8	2	1				2	2	6		11				2		
20歳～	/	12	131	1,804	28	34	7			4	5	2	45		/	1	3	/	/	/	/
20歳～29歳	2,768	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	9	58	/	/	2	4	/	/
30歳～39歳	3,054	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	77	/	/	1	5	/	/
40歳～49歳	1,182	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2	37	/	/	2	2		1
50歳～59歳	892	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2	52	/	/	/	1		/
60歳～69歳	597	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	31	/	/	/	1		/
70歳～	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	2	23	/	/	/	/	/	/
70歳～79歳	351	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
80歳以上	187	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	1	/	/